

温室効果ガス排出量（Scopes1・2）算定結果報告書
兼 カーボン・オフセット報告書
（2025年度）

株式会社 滋賀銀行

「三方よし」で地域を幸せにする

Sustainability Design Company

SHIGA BANK

本報告は、ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社より、2026年4月30日付で「独立した第三者保証報告書」を取得しております。

目的

本報告書は、滋賀銀行グループの事業活動を通じた GHG 排出量の算定結果および、カーボン・オフセットについて報告することを目的として作成されています。

GHG 排出量算定の範囲

2025年4月1日～2026年3月31日を算定対象期間とし、経営支配力基準を採用し組織境界および活動境界を下表の通り設定し、Scope1、Scope2 について算定を実施しました。Scope3（カテゴリー1～7、15）は算定が完了次第 2026年7月末の開示を予定しています。

滋賀銀行グループ (組織境界)	活動境界			備考 カテゴリー
	Scope1	Scope2	Scope3	
滋賀銀行	◎※1	◎※1	○※2	1～7・15
しがぎんビジネスサービス	◎	◎	－※3	
しがぎん経済文化センター	◎	◎	－※3	
滋賀ディーシーカード	◎	◎	－※3	
しがぎんリース	◎	◎	－※3	
しがぎん代理店	◎	◎	－※3	
しがぎんジェーシービー	◎	◎	－※3	
滋賀保証サービス	◎	◎	－※3	
しがぎんエナジー	◎	◎	－※3	
しがぎんキャピタルパートナーズ	◎	◎	－※3	
非連結子会社（組織境界外）				
しがぎん本業支援ファンド2号投資事業有限責任組合				

※1 日本国内の全ての拠点（寮・社宅を除く）

※2 銀行業の特性から、該当するカテゴリーのうち、重要性及び継続的な計測の実施を念頭にカテゴリー1～7及び15を計測対象としました。カテゴリー8はリース資産の利用に係るエネルギーを Scopes 1・2で計上しており、Scope3では計上しません。また、香港支店については Scope3に係る情報収集体制が整っておらず、カテゴリー15を除いて算定対象外とします。

※3 今般の GHG 計測の目的は GHG 排出量の全体像を把握し、削減に係る戦略を検討すること、および Scopes 1・2のカーボンニュートラルの達成です。Scope3のほとんどを銀行本体のカテゴリー15が占めることから、子会社の Scope3の算定は対象から除外します。

Scopes 1～3の GHG 排出源は次の通りです。

① Scope1

本支店において利用する都市ガス及び LP ガス、非常用電源用重油及び軽油、営業用車両向けガソリン及び軽油等。（生物由来の GHG 排出はありません）

② Scope2

本支店において利用する電力。

③ Scope3

カテゴリー1：主に消耗品の調達 カテゴリー2：本支店の建屋

カテゴリー3：調達しているエネルギーの上流工程 カテゴリー4：主に本支店間の物流

カテゴリー5：営業活動に伴う廃棄物

カテゴリー6：従業員の出張（営業用車両での移動は Scope1 で計上）

カテゴリー7：従業員の通勤

カテゴリー15：投融資（ビジネスローン、株式、債券、住宅ローン）

算定方法と排出係数

算定方法は GHG プロトコル及び PCAF スタンドダード（Scope3 カテゴリー15 が対象）に基づいています。排出係数は Scope1 及び Scope2 に関しては環境省 SHK 制度における

算定方法及び排出係数一覧、Scope3 カテゴリー1～7に関しては環境省の排出原単位データベース Ver3.5、IDEA データベース Ver2.3、国立環境研究所の環境負荷原単位、Scope3 カテゴリー15 に関しては Exiobase - Monetary 3.8.2 を利用しました。また、カテゴリー15 のビジネスローン、株式、債券にかかる算定は投融資先企業の Scope1～3 を対象としました。住宅ローンについては、PCAF スタンドアードに基づいた算定に必要なデータを入手した債権を対象に算定した結果を用いて、住宅ローン全体の排出量を推計する手法を採りました。

カーボン・オフセットの目的

滋賀銀行はパーパスに『「三方よし」で地域を幸せにする』を掲げ、地域社会・役職員・地球環境との共存共栄を経営理念としています。重要取組課題として「気候変動」を挙げており、その解決に取り組むことで、地球環境及び地域社会の持続可能性の向上を目指します。長期戦略において、実現したい地域社会の姿の達成イメージのひとつに「2050年までのカーボンニュートラル社会の実現」があります。この地域社会の姿を実現するために滋賀銀行が地域社会のモデルケースとなるべく、GHG 排出量 (Scopes1・2) の早期の削減を目指しています。第8次中期経営計画の達成指標に2029年3月末までに「カーボンニュートラル社会の実現に向けた GHG 排出量削減 (Scopes1・2) のネットゼロ達成」を掲げています。削減にあたっては、滋賀銀行グループ全体での省エネルギー活動をはじめに、再生可能エネルギーの導入などを進め、残りに対してオフセットを活用します。これらの活動により気候変動対応のみならず、地域経済の活性化へ寄与していきます。

カーボン・オフセットの定義と基本的な方針

滋賀銀行グループは Scopes1・2 のカーボン・オフセットを次のように進めます。

- ・ 事業活動を通じた GHG 排出量の削減活動を優先して実施します。LED 照明や HV をはじめとする省エネルギー設備の導入や、業務効率化によるエネルギー需要の低減、再生可能エネルギーの調達拡大を進めます。
- ・ 削減活動を経て残余する GHG 排出量については、Jクレジットを活用しオフセットを進めます。滋賀銀行グループの営業地域において創出される Jクレジットを中心に活用します。
- ・ オフセット実施後の Scopes1・2 にかかる GHG 排出量がゼロ以下となった状態 (カーボンニュートラル) を第8次中期経営計画の挑戦目標であるネットゼロの達成と考えます。

環境省「我が国におけるカーボン・オフセットのあり方について (指針) 第4版」および「カーボン・オフセット ガイドライン Ver.3.0」に基づいて実施します。

GHG 排出量 (Scope 1・Scope 2)

下表は、カーボン・オフセットなどを考慮しない GHG 排出量を示しています。

	種別	エネルギー使用量・ 非エネルギーGHG	排出量 (tCO2eq)	
Scope 1	都市ガス	27,298 m ³	56	
	LP ガス	64 m ³	0	
	ガソリン	208,419 L	477	
	重油	0 L	0	
	軽油	3,816 L	10	
	HFC	1 kg	1	
	小計			545
Scope 2	電気	13,278 MWh	マーケット基準	0
			ロケーション基準	5,616
Scope1~2合計			マーケット基準	545
			ロケーション基準	6,161

GHG 排出削減の取組

GHG 排出量の多くを占める電気由来の排出量は、エネルギー小会社のしがぎんエナジーが保有する FIT 電源由来を中心とした非化石証書を市場から購入し利用電力を再生可能エネルギー電気とすること、および電力会社の再エネプランを活用することで削減を実施しています。今後は、しがぎんエナジー保有の電源からの電力を同時同量で利用する取組を進めていきます。HV の導入や LED 照明への置換を中心とする省エネルギー活動も継続していきます。

利用した再生可能エネルギー電気の内訳

利用した電力	
関西電力再エネエコプラン	5,032,417kWh
非化石証書活用再生可能エネルギー電気	8,245,262kWh
しがぎんエナジー保有 FIT 発電所由来	8,061,344kWh (98%)
滋賀県内 FIT 発電所由来	183,918kWh (2%)

カーボン・オフセットの内容

種別 (方法論)	オフセット量 (tCO2)	無効化処理日	クレジット特定番号
Jクレジット (省エネ)	545	2026年3月31日	JC-400-000-005-996-324~ JC-400-000-005-996-648 JC-400-000-005-997-813~ JC-400-000-005-998-032

カーボン・オフセットによる相殺後 GHG 実質排出量

種別	実質排出量 (tCO2eq)	
Scope1	0	
Scope2	マーケット基準	0
Scope1~2合計	マーケット基準	0

第三者検証について

本報告書における Scope1 および Scope2 にかかる GHG 排出量の算定結果、およびカーボン・オフセットによるカーボンニュートラル達成について、ソコテック・サーティフィケーション・ジャパン株式会社より、2026 年 4 月 30 日付で「独立した第三者保証報告書」を取得しております。

以 上